

授業科目名	カウンセリング論 A, B	担当形態	単独		
		開講学期	春・秋		
担当教員	目黒 達哉	単位	2	年次	1
教職免許					
科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等					

※教員免許状取得のための授業科目は、ブルーの項目についても記載があります。

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

近年、カウンセリングということばをよく耳にするが、この講義ではカウンセリングとは何かについて学ぶことができる。現代社会は、心理的な援助を求めている人は多く、それに対応していけばよいのか課題である。そこで福祉現場、医療現場、教育現場のカウンセリングに実践事例を検討しその対応方法を身につける。また、この講義は教職を目指す学生のために教育相談（カウンセリングに関する基礎的を含む。）の理論及び方法についても学ぶことができる。さらにはカウンセリング実習、グループカウンセリング実習を実施する予定でこれらを通して自分自身を見つめ、自己成長の一助となる。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

この講義は、担当者の一方向的な講義に留まらず双方向コミュニケーションを取り入れた学生参加型である。カウンセリング実習、グループカウンセリング実習を導入するので学生の皆さんの積極的な参加を望む。

### ＝授業の概要＝

カウンセリングというと、ロジャーズのパーソンセンタード・アプローチを指すといっても過言ではないと思われる。

ロジャーズは、初め、自分自身の技法を非指示的療法と呼び、そして彼独自の方法として、クライアント中心療法と呼ぶようになった。

この療法は、心理療法の一つとして位置づけられていたが、その後、保健医療、福祉、教育等の分野でも応用されるようになり、最終的には、パーソンセンタード・アプローチと呼ばれるようになった。この講義では、このような経緯を踏まえ、まず、クライアント中心療法をきちんと学び、そして、特に教育分野への応用を講義する。

### ＝授業計画＝

- 1回 オリエンテーション
- 2回 動機について ～なぜカウンセリング論を受講しようと思ったのか～
- 3回 カウンセリングとは何か
- 4回 カウンセリングの目標及び基本（カウンセラーの基本的態度、積極的傾聴自己覚知など）
- 5回 悩み、ストレス、心の問題の発生過程及び解決方法（傾聴の方法）
- 6回 カウンセリングのプロセス
- 7回 カウンセリング実習① ～傾聴、受容、共感～
- 8回 カウンセリング実習② ～ロールプレイ～
- 9回 グループカウンセリング実習① ～気づき～
- 10回 グループカウンセリング実習② ～深まり～
- 11回 福祉現場のカウンセリング
- 12回 医療現場のカウンセリング
- 13回 教育相談の理論と方法
- 14回 教育相談の実践事例

15回 真のカウンセラーとは

**=テキスト（必携）=**

書籍名：絶対に役立つ教育相談

著者名：監修 藤田哲也、編著：水野治久、木田真大、串崎真志

出版社：ミネルヴァ書房

販売先：Yショップ

**=参考書・参考資料（必携）=**

**=成績評価の方法と評価の基準=**

**=その他=**